

あれも これもの 通所リハビリ テーション

通所リハビリテーション室長

理学療法士 市村 瑞也

通所リハビリテーションではこれまでたくさんのお花や野菜を育ててきましたが、今年の夏は野菜の種類を増やし、実験的栽培も行ってみました。サツマイモの袋栽培やジャガイモの苗植え（時期を逃して見事に失敗、秋に再挑戦

予定)、コンパニオンプラント(ネギ)の導入、落花生などです。利用者さんに農家の方が多くいらっしゃるため、作物が育ち具合や収穫が近づく度に昔話になったり、分からないことを教えて頂いたり利用者さんとの会話が弾み、通所で過ごす際のよい刺激となっています。収穫できた野菜は、希望する利用者さんに持ち帰ってもらい、喜ばれています。



**サツマイモと落花生
興にナス**



サツマイモの袋栽培



**助っ人の利用者さん
上手い！！**



私の足切らんといて～

みやと切りたがる)で、大いに盛り上がりました。いろんなことをしてみると、「人に歴史あり」で意外な面も見ることができて幅も広がり、今後もぼちぼちですが取り入れていこうと考えています。

また、木工が趣味の利用者さんがサービスを開始されたので、認知症治療も兼ねて椅子を作ってみました。すると、他の利用者さん（男性ばかり）も興味を示し、道具を家から持ってきてくれたり、墨付けやノコの使い方の指導や木を切るのを手伝ってくれたり（わしに切らして



**折り畳みの椅子を
2脚作りましたヨ**



実習生の 受け入れに ついて

理学療法室

理学療法室主任 理学療法士 池上 司

当院理学療法室では、平成20年4月より実習受け入れを開始し、現在は県内外2校の実習施設となっています。

臨床実習の具体的な内容及び期間は、養成校により若干異なりますが、1週間の病院見学実習、3～6週間の短期実習、約2ヶ月の長期実習が各学年によって行なわれます。臨床現場での実習を通じて、いろいろな経験を積み必要な知識、技能の習得を行なっていきます。

当院での実習の一番の特徴は神経難病に対する理解が深まることにあります。骨折などの比較的明快な疾患とは異なり、多岐にわたる症状がみられ、その多くは進行性です。学生は疾患のことだけでなくそのような患者さんにどのように関わっていくのか、どのように対応すればよいのか、倫理的な部分も学んでいきます。こうしたことで人間的にもより一層成長できるのではないかと思います。

患者さんも若い学生さんと触れ合うことで訓練意欲が向上したり、運動機会が増えるなど利点が多くあります。また学生指導には時間がかかり大変な事も多いですが、学生を受け入れる側としても、刺激になり双方に利益をもたらしてくれます。実習生の親が私より年下ということも多くなりショックを受けることも増えてきましたが、今後も継続して、後進の育成にも尽力していきたいと思っています。

地域連携・医療相談室

精神保健福祉士 山本 真里

患者様、関係機関の皆様、関連部署の皆様にご協力いただき、今回、精神保健福祉士を目指す佛教大学4回生1名を平成29年8月28日から9月12日の12日間受け入れさせていただきました。

12日間と短い期間でしたが、沢山の学びを得られたようで、患者様やご家族、そして取り巻く環境について、もっと学びを深めたい、理解していきたいという意欲と課題をもって大学へ戻っていきました。

最終日の実習生の姿は頼もしく、卒業後現場で会えることを楽しみに思っています。

患者様やご家族の中には、時に重い病気や障害により、地域生活や地域社会から切り離され、安心して居られる場所や仕事、信頼できる人を得ることが難しかった方も少なくないと思います。

精神保健福祉士は、患者様やご家族の良いところを強みに、安心できる場や仲間づくり、社会とつながる機会をひろげていく重要な役割であることを知ってもらえたことを嬉しく思いました。

とても良い時間を実習生と共に過ごせた私たちですが、実際は常に時間的な余裕がない中で、きちんと自分たちの個別の関わりを理論化して伝える事ができると、実習指導者としての力量に不安を抱えた中での受け入れでした。

そのため、緊張した面持ちの実習生が目の前に現れた時は、受け入れた責任の重さに平静を装いつつも表情筋がうまく動かなかったことを思い出します。

実習指導を終えた今、実習生から得た良い刺激を実践に活かしていきたいと思っています。

こうして、実習生を受け入れる体制が整ったのも、ソーシャルワーカーの増員と、病院から精神保健福祉士実習指導者資格を得る講習会に行かせていただいたお陰です。

ありがとうございました。